別冊 教育委員会からの別冊です。
広報紙からはずしてご覧ください。

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果

問 学校教育課 ☎63-3118

文部科学省は毎年4月、児童生徒の学力や学習状況を把握し教育施策や学校の学習指導の充実に役立てることを目的に、全国すべての小学6年生と中学3年生を対象とした「全国学力・学習状況調査」を実施しています。宍粟市では、この結果を分析し、子どもたちの良さをさらに伸ばすとともに、一人ひとりに応じた学習支援を進め、課題を解決するために小・中学校と各家庭が連携して学力向上に取り組んでいます。

宍粟市の全体的な状況と特徴

教科に関する調査…2ページ

① 国語、算数・数学について…おおむね全国と同水準、活用力や表現力に課題

国語、算数・数学の正答率は全国平均と比べて小中学校ともに数ポイント下回っています。全国とほぼ同じ水準にあるととらえていますが、国語では相手に伝える工夫（考えの書きあらわし方、質問しながら話の内容をとらえる）を答える問題に、算数と数学では用語の意味理解や、式にあらわしたり説明を記述したりする問題などに課題がみられました。

② 中学校英語について…標準グループの範囲内、「書くこと」「話すこと」に課題

中学校英語は令和5年度以来の調査で、生徒がタブレット端末を使って試験問題に解答しました（CBT（Computer Based Testing）方式）。結果は正答率（%）ではなく、国際的な統計数値「IRTスコア」であらわされています。解答の難易度などを考慮したIRTスコアでは全国平均を下回っていますが、生徒の学力レベルを国が5グループに分類し示した「IRTバンド」にあてはめると「標準グループ」に位置します。

調査結果からは、「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章や内容を書いたり話したりできる」「音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことや話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけている」など、「書くこと」や「話すこと」の問題に課題が見られました。

③ 無解答率について…粘り強い解答姿勢が見られる一方、一部の記述問題で無解答率に課題

小学校の国語・算数や中学校の国語において、大半の設問における無解答率が全国平均より低くなっています。あきらめることなく最後まで粘り強く考えて書こうとする、子どもたちの前向きな学習姿勢がうかがえます。一方で、中学校の数学で思考の過程を説明する問題や、中学校英語「書くこと」の一部の問題において、無解答率が全国より高くなっています。

質問紙による学習・生活状況の調査…3ページ



① 学習に関する状況

・課題解決に向けて自分で考え、工夫しながら意欲的に取り組んでいます。
・友達と考えを深め合ったり、新たな考え方に気づいたりすることができています。
・タブレットなどのICT機器を日常的に有効活用することに課題が見られました。

② 生活に関する状況

・自己の評価を感じる自己有用感や他者との関わり、他者への思いやりに関する質問に対して、前向きな回答の割合が全国平均と比べて高くなっています。
・「授業時間以外に読書をしない」と答えた割合が3割を超え、学校の授業時間以外の読書時間が全国同様に短いです。

調査の概要

(1) **調査人数**　小学校6年生【251人】中学校3年生【275人】

(2) **調査事項**

ア　教科に関する調査
　・小学校6年生【国語、算数】　・中学校3年生【国語、数学、英語】

イ　児童生徒への質問調査
　・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面などに関する質問

出題された問題はコチラ

※この調査により測定できるのは学力の一部です。結果の数値などが児童生徒の学力のすべてをあらわすものではありません。

令和８年度の学力の状況

平均正答率（紙媒体による調査）…国語・算数・数学

区　分	教　科	宍粟市(%)	全国(%)	全国との比較(%)
小学校６年生	国　語	57	61	−4
	算　数	52	56	−4
中学校３年生	国　語	63	64	−1
	数　学	52	57	−5

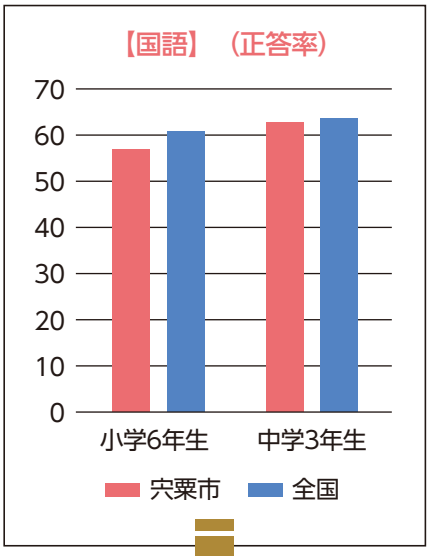
IRTスコア※（タブレットを使用した調査）…英語

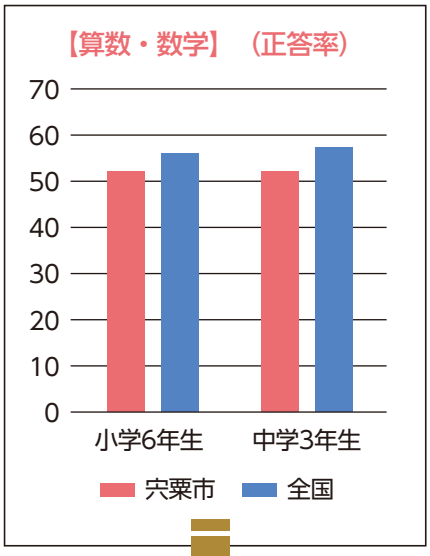
区　分	教　科	宍粟市	全　国	全国との比較
中学校３年生	英　語	478	499	−21

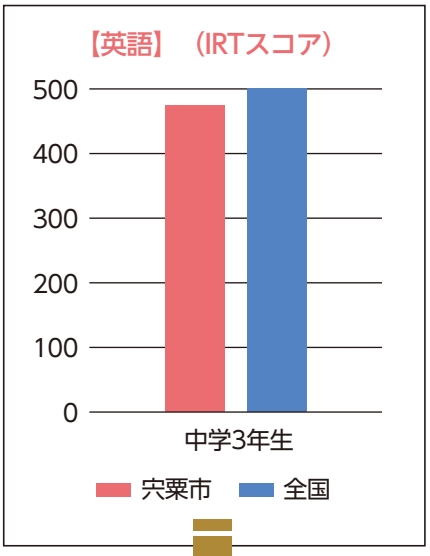
※IRT(Item Response Theory:項目反応理論)
「IRT」とは、生徒によって取り組む問題が一部異なり、問題の難易度を考慮して実力を正確に測定・比較できる統計手法です。全国の平均スコアが「500」という基準になるよう作られており、正答率（%）とは異なる数値です。そのためIRTスコアの全国との比較値を、国語・算数・数学の全国との比較値と単純に比べることはできません。IRTスコアの数値に基づき、生徒の学力レベルを5つのグループに分類したものを「IRTバンド」と言います。IRTバンドの全国結果（下表）で、宍粟市平均スコアはバンド3（標準グループ）にあてはまります。

IRTバンド	1	2	3	4	5
IRTスコア換算	～341	342～448	449～556	557～663	664～

各教科の結果状況（全国平均と比べてできていた問題・苦手な問題）







【できていた】
小 文章を読んで考えたことを自分の経験と結び付けて書く。
中 話し合いを受けてどのような意見を述べるか、自分の考えを書く。

【苦手】
小 集めた情報を引用し、条件にあった文章を書きあらわす。
中 比喩（たとえ）などの工夫を使って書かれた文章のよい点や改善点を、読み手からの助言をふまえ、見いだす。

【できていた】
小 3枚の数字カードを並べかえ、条件に合う小数を作る。
中 箱ひげ図から読み取れることとして正しいものを選ぶ。

【苦手】
小 体積の意味を理解し体積を求める。分母が違う分数の大小を判断する。
中 2直線の平行条件を理解し根拠となる角を選ぶ。累積度数の意味を理解し数値を求める。

【できていた】
・物語を読み、物語全体をとおした登場人物の気持ちの変化を読み取る。

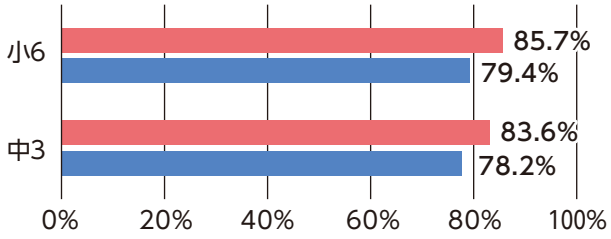
【苦手】
・日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書いたり内容を話したりする。
・書くことや話すことによる実際のコミュニケーションにおいて知識を活用する。

児童生徒の学習・生活状況（児童生徒質問紙調査から）

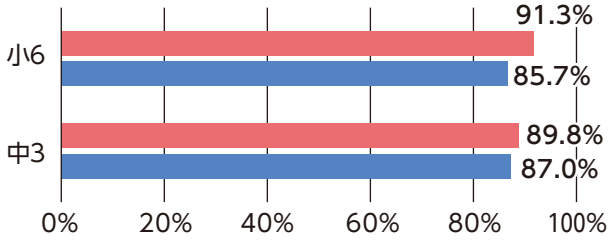
【学習に関すること】

宍粟市　全　国

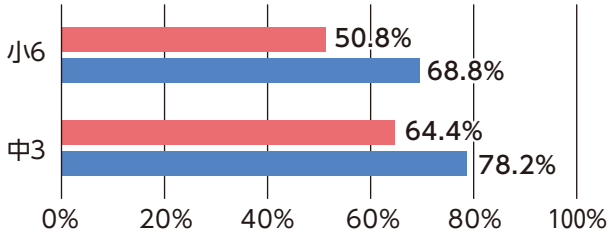
分からないことやくわしく知りたいことがあったとき自分で学び方を考え、工夫できている



学級の友達との間で話し合う活動をとおして、自分の考えを深めたり新たな考え方に気づいたりする



前年度までに受けた授業で、タブレットなどのICT機器を週に3回以上使用した

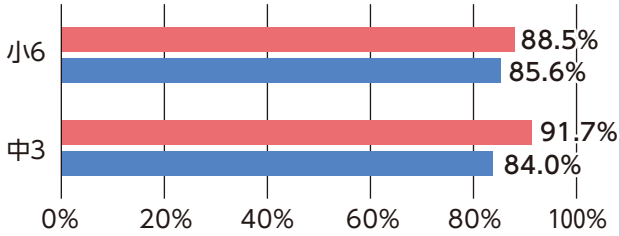


☆主体的な学び・対話的な学びに関する項目は、小中学校ともに肯定的に回答した児童生徒の割合が全国平均を上回っています。
★「授業でタブレットなどのICT機器をどのくらい使用したか」との質問に対し、「ほぼ毎日」または「週３回以上」と回答した児童生徒の割合が、小中学校ともに全国平均を下回っています。授業においてICT機器を効果的に活用し、情報活用能力を向上させることが今後の課題です。

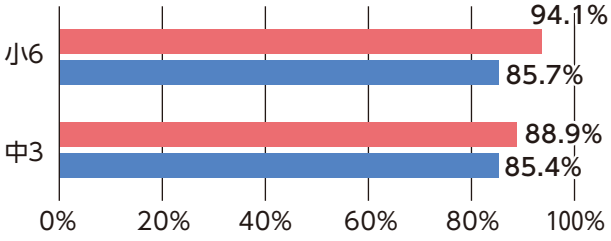
【生活に関すること】

宍粟市　全　国

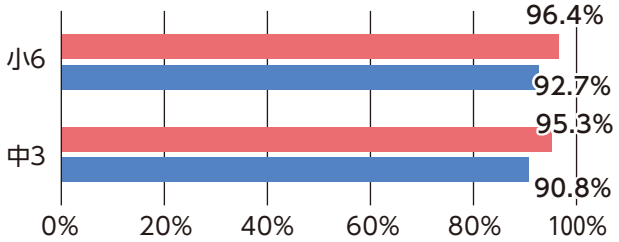
自分には、よいところがあると思う



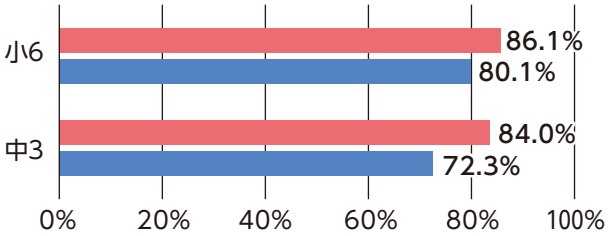
学校に行くのは楽しいと思う



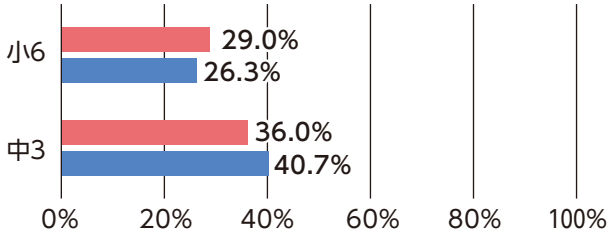
人が困っているときは、進んで助けている



地域や社会をよくするために何かしてみたい



学校の授業時間以外に、普段、1日どのくらい読書をするか（「全くしない」と回答した児童生徒の割合）



☆自己有用感に関する項目や学校が楽しいかを問う質問に前向きな回答をした児童生徒の割合は全国平均を上回っています。また、他者への思いやりや地域・社会との関わりに関する項目も肯定的回答が全国平均を上回っています。
★「授業以外で読書を10分以上している」と回答した割合は小学校で約38%、中学校で約34%でした。一方「全くしない」という回答は、小学校で約29%、中学校で約36%にのぼりました。読書習慣の定着に課題が見られます。

別冊 教育委員会からの別冊です。
広報紙からはずしてご覧ください。

子どもたちが夢と自信を持ち、可能性に挑戦する力を育むために

宍粟市の子どもたちの「生きる力」を育成し、学ぶ意欲を支えるための取り組みを一部紹介します。

みんなで「わくわく」!よりよく課題を解決し自己の生き方を考える「総合的な学習の時間」

宍粟市では「総合的な学習の時間」を中心に、主体的に課題解決を行う探究的な学びの取り組みを小中学校が連携して進めています。「宍粟市小中学校生活・総合研究部会」や、市内教職員の意欲研修「わくわくしそう探究講座」などをとおして、授業研究やカリキュラムづくり、探究活動の研究を行っています。

ふるさとをテーマとした学習も各校で展開されています。子どもたちは、身近な実社会や実生活から問いを見いだしたり、地域の人の様々な取り組みや思いにふれたりすることで、地域への学びを深めています。



科学って面白い!理科おもしろ実験教室

市内の小学校5年生を対象に、科学の専門家を講師として迎え、特別授業を実施しています。今年は、電気(モーター)の力で動くおもちゃを動かす実験や体験を行いました。理科への興味・関心が高まっています。



ICT機器の整備・効果的な活用の研究

今年度から1人1台端末(タブレット)を「iPad」に変更し、授業で活用しています。効果的な活用のため、市ではICT支援員による活用研修や授業支援を行っています。情報活用能力の向上をめざして、各校で取り組みを進めています。

授業では、例えば次のような機能を活用します。

○文章やスライド資料などの作成→「Google」
○学習内容の定着→学習支援ソフト「eライブラリ」
○自分の考えを表現し、意見の共有や整理を行う
→クラウド型授業支援ソフト「ロイロ・ノート」
○ポスターやスライド資料の作成、動画の編集など
→デザイン作成ツール「Canva」

英語力や英語の学習意欲の向上をめざして

毎年、中学生の国際的な視野の育成を目的に「中学校英語スピーチコンテスト」を開催しています。

また、小中一貫教育を開始した小中学校では「小中つながる英語授業づくり事業」を行い、小中学校が協働して授業研究を実施します。コミュニケーション力の向上や、ALTとのティームティーチングを研究し、小中接続・連携の充実を図ります。



また、市では「英語検定料補助事業」を実施しています。市内中学生を対象に「実用英語技能検定」の検定料を年度に1回、全額補助します。

しそう学力向上検討委員会

学識経験者と教職員で委員会を組織し、全国学力・学習状況調査の分析と、授業改善のための協議を行っています。昨年度は以下の改善方策が示されました。

- **国語→**「比べる授業づくり」を行う(文章の構造を比べる、自分と他者の読み方を比べる　など)
- **算数→**児童自身が課題を考え、伝え合いによる思考の深化を大切にする
- **数学→**書くことを重視し、数学的な表現を用いて事象を表現する
- **理科→**主張、根拠、理由付けをおさえた考察の充実
- **外国語→**本物のコミュニケーションをめざし、伝える必然性や相手意識を持った言語活動の充実
- **学習生活状況→**児童生徒の自己肯定感を育む・家庭学習や読書の習慣づけ・ICTの活用

今後の取り組み

今回の結果をふまえ、今年度も「しそう学力向上推進プロジェクト事業」を実施し、すべての子どもたちに確かな学力を育成する取り組みを進めます。「主体的・対話的で深い学び」の一層の充実に向け、「しそう学力向上検討委員会」で学習・生活状況を分析し、すべての小中学校において指導方法の工夫・改善に取り組みます。子どもたちの強みを大切にしながら、得意をのばし課題が克服できるよう、一人ひとりの指導・支援にあたります。